

# さ ざ ん か

第89号、2009年3月

3月の風物詩は別れと出会い。卒業や進学・就職で故郷を離れる若者達、夢と希望を持って春を迎えて欲しいものですが、社会はあまり余裕を持って若者を迎える状態でもなさそうです。でも、いつの世も、「時代」と云うものはあるもの。確かに100年に1回のとか言われる不況の「時代」ではあるけれども、多くの若者が戦場で散っていった戦前の昭和と比べるとはるかに良い「時代」だともいえます。常に未知の世界が待っているのが、若者の世界ですので、希望と勇気をもって新しい社会に立ち向かって行って欲しいと思います。

伊佐地方の春は、冬が厳しいだけにひとしお待ち焦がれるものがあり、また待っただけの素晴らしい春がやってきました。曾木の滝の水流の音を耳にしながら見る満開の桜の下を散歩する贅沢は他所では得られない貴重な春の贈り物です。病院敷地内の桜も、療養する人やお見舞いの人を癒してくれます。ちょっと不便な地にある病院ですが、こんな時は街中の喧騒の中になくて良かったのかもと思ったりもします。

4月から脳神経外科外来が週2回から週1回に縮小されます。肝臓病専門外来は月1回から月2回に増えます。勤務医師不足の時代ですが、何とか地域の中核病院として医師確保に全力を挙げて取り組んでいるところです。みなさまにはご迷惑をおかけしておりますが派遣元の大学病院そのものに医師がいないという苦しい事情をご理解いただくようお願いいたします。

---

---

## 俳句

西屋敷喜美子

駅伝を 春一番と 応援す

春の雨 せつなきものや 小道行く

頼まれし 買い物忘る 路の堇

## 病院からのお知らせ

- \* インフルエンザの季節もどうにか終わりそうです。せっかくの習慣ですから、うがい、手洗い励行はそのまま続けましょう。
- \* 神経内科外来は火曜日が鹿児島大学からの応援医師、それ以外は高橋先生の担当になります。
- \* 毎月第3金曜日の血液外来は前院長の野村紘一郎先生の担当になります。その他肝臓病外来（4月から月2回に増えます）、糖尿病外来（月、金：福重先生）の専門外来も開設しております。
- \* 4月から当院で1年間の研修を開始していた米澤英理先生が3月で別の研修病院へ異動します。1年間、お世話になりました。彼女の今後の成長を期待したいと思います。
- \* 脳神経外科外来について：4月からはやむなき事情により週1回金曜日になります。詳細は脳神経外科外来でお尋ね下さい。
- \* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- \* MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながることもあるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- \* MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- \* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

梅の花も、先週まで満開で、とてもきれいで、見る人の目を楽しませてくれていたが、今はすっかり青葉をみせている。いまは桃の木に、つぼみのふくらみがあり、早いものでは種類によっては満開である。此処2, 3日暖かいせいか、すだれ桃が明日にも咲きそうである。此処4, 5日忙しい日々であったが、今日の午後時間があつたので、友人に逢いにいった。私より一才年上の七三才だが腰痛が酷く、大手術を受け退院したばかり。まだ体調は良くない。彼の話では一時間位前の出来事のこと。杖をついて歩いていた時つまづいて転倒しいた。

通りかかった七才の女の子が、杖を拾って、おじちゃん、どうぞと渡してくれた。その時、素直にありがとう。不自由な足腰、女の子の後姿を見送り乍ら、何度かありがとうと、つぶやいた。涙声の想いであつた。暫らくしてその子の家を尋ね、お礼に行った。両親にも話した。今時、子供の小さな親切、気持ちこそが私にとっては、本当に有難く嬉しかった。子供の小さな親切、気持ちこそ大事にしたいと話してくれた。そして当時の二人の姿が私の頭をよぎった。なんと素晴らしい光景だろう。

子供の新芽を大切に育ててこそ、明るい人生があるのだと思った。また、あの時大人だったらどうだったろうか。小さな親切とは云え、高齢化の進む今日、お互いに助け合い、良き人間関係を作っておくべきと思う。言葉の一つでも大切である。老いた私達こそ、いまの老人社会のあり方について、今少し認識すべきではなかろうか。助け合い、譲り合いの精神も必要ではなかろうか。今日の日を悔いのない楽しい1日を送りたいものです。

---

---

**宮園辰夫シリーズ**

---

---

**短歌**

春あさく 沈みゆく陽が あかあかと 枯野を染める 絵模様のごと

手植して 往きし夫へ 初咲きの 大輪の薔薇 飾る嬉しさ

**俳句**

胸に手を おきて笑顔の 春の夢

沈丁花 ふくいく香る 頬染めて

**川柳**

大輪も裏で支える 枝があり

## さつま狂句

主人も上戸女房も上戸で一升瓶な空なけっ

孫んメールが来れば厳し婆もニコッチなっ

可愛想こつ乗いてもおらん 巡回バス

---

## 春はいつ来る カラーマン (とそのオンナ)

どこまで信憑性があるかどうかは知らないが、とにかく今は 100 年に 1 回の不況ということらしい。何をもって 100 年に 1 回といえるのかどうか。どういう数学的根拠があるのだろうか。(まあ、それくらいの滅多にない状況と云う意味だから、あまりそれは深く考えなくてもいいのじゃないの？いつも軽いのにこんなことには妙にこだわったりするのねえ、バッカみたい)

ニュースなどで知る限り、景気はかなり厳しくて職を失う人々が多いらしい。職があっても年収 200 万円以下の労働者が 1000 万人を超えた、という寂しい状況なのにさらに、職を失う人々が増えるというとても恐ろしい時代がやってきつつある。(先月まであった給料が今月から無くなるとか、いま住んでいる家が明日から出て行かなければならない、という事態はわが身に置き換えてみると、想像を絶するきついことだわね。)

いったい、どこでどうなったのだろうか。どこで日本国はこういう方向へ舵を取ったのだろう。一億総中流時代と言われた時代があったではないか。だれもが、そこそこであった時代。なぜそれで満足しなかったのだろうか。「頑張った人が頑張ったなりに報われる社会」という言葉に多くの人が騙されたような気がする。そこそこ満足していた人々に、みんなと同じでいいのか？、君は頑張っているのだからもっと報われてもいいのじゃないか？君の実力に見合った報酬を貰うべきではないのか？などと悪魔の囁きが投げかけられ、多くの人々がその言葉に乗ってってしまった。

「頑張った人が報われる社会を作る政治」を掲げたコイズミ氏が、自民党をぶっ壊しても改革する、とぶち上げ多くの国民がそれを信じて彼に投票した。(何となく幸せの閉塞感みたいなものがあって、このままじゃだめだ、改革が必要だ、という言葉は新鮮だったわねえ。改革なくして繁栄なし、なんてね。)

コイズミ氏のいう「頑張った人」は、しかし、「上手く立ち回った人」「もともと恵まれた人」たちであった。「上手く立ち回った人」「もともと恵まれた人」は確かに報われた。金を持っている人は更に、豊かになった。上手に立ち回った人も出世した。能力主義、成果主義は確かに一部の人間には合った。(彗星のように出てきたホリエモン氏をマスコミはもちあげ、現代の英雄みたいな扱いだったわね。颯爽と現れた新時代の若者が、格好良かったわあ。彼のお嫁さんになったら幸せになれるそうだったもの。もちろんお金持ちだから、だけなんだけどね)

しかし、能力、成果を発揮できるのはあくまでも「個人」というレベルでの話である。そこに共生とか共同とかいう要素は入ってこない。従って、結局は自己中心人間のみが上手く立ち回り成果を挙げる結果となった。縁の下の力持ちは評価されなくなった。コソコソ仕事をする人間は無能力者呼ばわりされた。遅れている他人をかばっている暇があれば、少しでも先に進まなければならない。そうしないと自分が遅れてしまうのだ。(優しさやお人よしは出世の妨げになるし、そういう行為は業績には繋がらないのだからね。)

能力、成果の指標は金であり、他人よりも売り上げの多い人間のみが、金のみを基準に評価された。より多い金を得るためには、次々とキャリアアップと称して、会社を替わった。今まで居た会社が潰れても、彼の顧客が損をしても、それは彼には関係のないことであった。(いま、アメリカの生命保険会社の上の人達が何億円というボーナスをもらうとかいって問題になっているわね。日頃の給料もたくさん貰っているだろうに、まださらに貰いたいというのはさすがに凄いわね。彼らの本質を見るような気がするなあ)

社会に貢献するという成果は彼の価値観とは無縁であった。みんなが幸せになる、という事は彼にとってはお笑い草の話だ。個人が幸せになる、そのことが、みんなの幸せになるのだという理屈が彼には合っていた。タケナカ氏の発行する、豊かになった上のものが、落ちこぼれた人々を救えば良いという免罪符が彼から罪悪感を奪った。

職がないのは、選り好みするからであり、それはあくまで自己責任であると、コイズミ、タケナカ氏は言う。日本人の多くは今、大変な状況にあるが、少なくともコイズミ、タケナカ氏は現在は何食わぬ顔して幸せそうに見える。

コイズミ、タケナカ氏がお手本とした米国の新自由主義は破綻し、企業は国からの資本注入でかろうじて存続し、自己責任の世界からはほど遠い状況になっている。自由な競争を阻害しないための規制緩和どころか、国家が企業を管理するという国家社会主義になっている。官から民、の行き着く先は官による民の救済であった。(コイズミ、タケナカ氏の

合言葉は官から民、カンカラミンだったわね。)

春はいつ来るのだろうか、と思うと気が遠くなる。共産主義の破綻、資本主義の行き詰まりの世界の中で、どういう社会システム良いのであろうか。(あらまあ、あなたがそんな事考えてどうするの。世の中、なるようになるのよ。それに、春が来ても、その次にはまた夏が来て、秋が来て、そしてまた冬が来てしまうわ。大体、春を心待ちにして待つ、なんて冬に失礼だわ。冬には冬のよさがあるので、冬を楽しんだらいいのよ)

明日はあしたの風が吹く、という姿勢はもともと日本人の習性にあうのだろうかから、われわれ国民はそれでもいいけど、少なくとも政治だけは、きちんと明日の天気を読んで欲しいと思うが、どうも、それも多くは期待できそうにないか。

結局、なるようしかならない、というスタンスが自己防衛になるのだろうか。なんとも、寂しい話ではあるが。(それでいいのよ。今日は今日の風に吹かれましょうよ。)

### 大木と菩薩 (by 坂村真民)

大木は  
いつも瑞々しい  
それは  
いつも伸びようと  
しているからだ

菩薩は  
常に若々しい  
それは  
つねに夢を持って  
いられるいからだ

---

---

### 編集後記

---

---

今年ももう4分半期が過ぎてしまいました。時の流れを早く感じるときもあれば、なんとも遅く感じる時もあります。人生は短い、としみじみ思うときもあれば、その果てしない長さを思いやるとき、うんざりすることもあります。

絶対的な時間の長さは変わらないのでしょうかから、要は個人の捉え方で時間は短くも長くもなるということでしょう。一般的には冬は長くて春は短い。短いからこそ春の一日は大切に思われるのでしょうか、でも大切な一日はもっと長くあって欲しいと思うのもまた人の世。みなさん、春の好日を楽しみましょう。(KT)